

## 言語獲得とこころの発達：使用から見る言語習得の諸側面

言語獲得は言語機能の認知的メカニズムを探求する上で不可避の課題であり、その研究の蓄積は主に理論言語学と発達心理学で築かれてきた。理論言語学では従来、「刺激の貧困」を根拠とし生得的な普遍文法を仮定する生成文法のパラダイムに則る研究が主流を占めており、その代表例として Pinker (1994) が挙げられる。発達心理学においても生成文法の言語観を適用した研究事例が多数見られ、語彙や文法事項の習得順序の規則性など、観察に基づく実証研究が中心である。

一方で、生得的な言語能力を仮定しない認知言語学的パラダイムが獲得研究に応用され始めたのは比較的近年であり、その牽引役が Tomasello (2003) である。特に習得という動的プロセスに有効性を発揮するのが「使用基盤モデル」であり、Tomasello は個別の動詞に結合した項構造（動詞の島）からの一般化により構文が獲得されることを示した。さらに、事例に基づくカテゴリー化 (exemplar-based category) が提唱されて以来、具体事例の重要性の認識が一層高まり、規則からのトップダウンにはよらないシステムが評価されつつある。そのほか、意図伝達という語用論的要因も習得の重要な動機づけであり、発話状況や対話者との関係、発話行為の遂行などの側面も考慮の必要がある。ひいては自己の知覚や認識、自己と外界との関係性の概念化といった要因も言語習得のプロセスを考える上では必要不可欠である。

こうした認知言語学的観点から、従来生成パラダイムで提示されてきた獲得研究を捉え直し、言語習得に関わる諸要因の複雑性・多様性を示すと共に、社会的発達と言語に関する心理学の実証研究の知見とあわせ議論を深めるのが本ワークショップの目的である。以下に示すように、第1・第2発表で認知言語学、第3発表で発達心理学の観点から研究事例を提示する。これらの研究の知見がどのように関連し補完し合えるかを議論し、言語理論と発達心理学の双方向でのフィードバックを通じ、統合的に言語獲得研究を推進していく手掛かりを発信したい。

第一発表は、移動事象の認知とその言語習得を扱う。Mandler (2004, 2005)によれば、子どもは、誕生してすぐの段階から移動に注目し、〈経路〉や〈生物移動〉/〈無生物移動〉といったイメージ・スキーマを形成するという。また、Slobin (2000) は、英語を母語とする就学前の幼児 (2-4 歳) が、同年齢のスペイン語やフランス語、イタリア語を母語とする幼児よりも極めて多くの様態移動動詞を習得していることを明らかにしている。本発表では、これらの先行研究を概観した上で、英語における移動事象の表現形式の習得を、認知的な観点から考察する。具体的には、動詞 *go, get, run* に注目し、CHILDES や絵本から収集したデータに基づいて、発達のどの段階でどのような移動表現が獲得され、そこにはどのような認知的な要因があるかを検討する。

第二発表は、英語で無生物の「モノ」が主語となる自動的表現に関し、他動的事態から動作主（典型的には子ども自身）を背景化させ行為の対象であるモノに注意を向ける事態認知がどのようなプロセスを経て習得されるか、CHILDES から収集したデータに基づき検証する。事態認知に関しては、子どもが意図した行為の失敗の原因を外界に帰す場合など、自己と外界（モノ）の認識が子どもの選択的注意に強く影響することを主に示す。また、子どもが受け取るインプットである大人の発話を詳細に分析し、Goldberg (2006) で指摘されているように子どもの習得が保守的である点、大人から子どもへの発話はタイプの偏りが見られる点を確認し、文法レベルにおいても一種の母親語(motherese)が存在し習得の手助けとなっていることを示す。

第三発表は発達心理学の立場から、子どもの社会的発達と言語獲得との関係を議論する。心理学において言語獲得は、そのプロセス自体が探究の対象であると同時に、子どもの発達の幅広い側面において重要な役割を果たすものとされてきた。例えば就学前の幼児が両親などと交わす会話、特に子どもの過去の経験に関する会話については、その内容や親からの働きかけが、子どもの持つ自他の心的状態（感情、認識、信念 等）に関する理解、自身の過去に関する「自伝的記憶」の構成、親子の情緒的な関係の質など、子どもの自己・他者理解に関する様々な側面の発達および個人差と関連することが実証的な資料をもとに示されている。ただし、こうした知見は諸要因の複雑な絡み合いを示唆し、その解釈・理解も多様である。本発表では、このことを示した上で、特に子どもの発話を受け止め理解する者も含めた関係的・動的側面を重視するアプローチの重要性を議論する。

#### 参考文献

- Goldberg, Adele E. (2006) *Constructions at Work: The Nature of Generalization in Language*, Oxford University Press.
- 小林春美・佐々木正人（編）(2008) 『新・子どもたちの言語獲得』大修館書店.
- Mandler, Jean M. (2004) *The Foundations of Mind: Origins of Conceptual Thought*, Oxford University Press.
- Mandler, Jean M. (2005) "How to Build a Baby III," *From Perception to Meaning: Image Schemas in Cognitive Linguistics*, ed. by Beate Hampe, 137-164, Mouton de Gruyter.
- Pinker, Steven (1994) *The Language Instinct: How the Mind Creates Language*, William Morrow.
- Slobin, Dan I. (2000) "Verbalized Events: A Dynamic Approach to Linguistic Relativity and Determinism," *Evidence for Linguistic Relativity*, ed. by Susanne Neumeier and Rene Dirven, 107-138, John Benjamins.
- Tomasello, Michael (2003) *Constructing a Language: A Usage-based Theory of Language Acquisition*, Harvard University Press.